



医薬品情報室

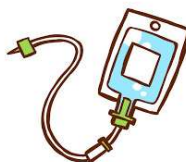


がん薬物療法は、医療スタッフのみならず患者さんやご家族が、抗がん薬や支持療法の目的・効果および副作用を理解することがとても重要です。

医薬品情報室では、医師から依頼された外来患者さんに服薬指導を行い、抗がん薬や支持療法の目的や効果、用法用量、主な副作用や注意すべき事項などを説明しています。



がん薬物療法の最近の話題



○がん薬物療法について

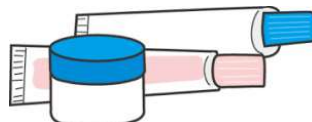
近年のがん薬物療法の開発は目覚しく、これまでの細胞障害性薬剤やホルモン療法剤、既存の分子標的薬に加え、新規分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬など、新たな薬剤が続々と登場しています。これらの薬剤は高い効果が期待される一方、これまでにない副作用が発現する恐れがあります。そのため、既知の副作用の理解と、未知の副作用に対する適切な対応がこれまで以上に求められます。



○新規薬剤の主な副作用について

分子標的薬

がん細胞増殖過程のどの部分に作用するかによって多くの種類があり、副作用も異なります。EGFR阻害薬はざ瘡様皮疹・皮膚乾燥・爪囲炎などの皮膚障害が、マルチキナーゼ阻害薬は手足症候群が現れやすく、血管新生阻害薬(VEGFR阻害薬)は高血圧や血栓塞栓症、QT間隔の延長など、心血管系の副作用に注意が必要です。



免疫チェックポイント阻害薬

がん細胞は、人が本来持っている過剰な免疫を抑制する機能(以下、免疫抑制機能)を利用して攻撃されにくい性質を獲得します。免疫チェックポイント阻害薬はがん細胞と免疫抑制機能の結合を阻害することで、免疫機能を高めてがん細胞を攻撃します。そのため、免疫関連の副作用が現れる恐れがあります。

G

ブロック

がん相談
支援センター

緩和ケア
センター

栄養
相談室

医薬品
情報室

患者サロン

アピアランス
ケアルーム

図書室

